



# 萌木

## 5月号

～自尊・立志・感動～



調布市立第七中学校

校長 山田 勝

令和3年5月6日発行

## 自助・共助・公助

校長 山田 勝

新型コロナウイルス感染拡大に伴うまん延防止等重点措置並びに緊急事態宣言の発出により、日々新たな対応へのご理解ご協力いただきまして、ありがとうございます。

また、感染対策を行ったうえでの全校保護者会・部活動保護者会への参加、ありがとうございました。

4月24日は、「調布市防災教育の日」でした。引き取り訓練や避難所体験はできませんでしたが、今できる活動の中で、生徒たちにも「防災」について考える一日とすることができました。

「命」をテーマとした道徳では、どの生徒も真剣に命について考えました。かけがえのない命を慈しみ、大切に大事にしようという思いを、改めて自分の心に沁み込ませてくれたと思います。

「避難訓練」でも放送・先生の指示をしっかりと聞き、真剣に訓練に取り組んでくれました。避難訓練の校長講評では「自助・共助・公助」について触れながら話をしました。

「自助」は、自らの命を守るための行動・役割です。

災害時に、一人一人が自分勝手に違う方向に避難しては新たな災害を生んでしまう「パニック」を起こすことになります。避難経路を確認し、避難指示をしっかりと聞き行動する、そのように行動することが自分の命を守ることにつながる「自助」になります。

「公助」は行政、市役所や消防署などが避難所を開設したり、被災者を救護するものです。

そして「共助」は、地域の命を地域の力で守るための取り組みです。

地域の人、隣の人と互いの命を助け合う取り組みで、できることをできる人が担います。公助がくるまで、自分たちで命をつなぐために力を出し合って、助け合う姿勢が「共助」です。

昼間の時間に発災があったとき、調布市のような住宅地では自宅から遠い勤務地に多くの人が出ています。そこで、地域で学ぶ中学生の力が重要となってきます。中学生の自分が地域のためにできること、お年寄りへの声掛けや避難所への誘導、物資の運搬など何かできることで、地域防災の担い手となることが期待されています。

いざ災害が発生したとき、自分はどのように行動するのか、行動するべきなのか。自分の力で何ができるのか、何を期待されるのか。自分の行動で誰をどのように守ることができるのか、逆に自分の行動が周りにどのような影響を与えてしまうのか。そのようなことを考え確認する機会にできることが、調布市防災教育の日の在り方の一つと解釈してもよいと思います。

新型コロナウイルスまん延下の現在、地震などへの災害への心構えと通じるものがあると感じました。緊急事態宣言やワクチンなどの公助、マスクや手洗い、三密回避の共助、自制し自律する自助。公助が来るまでの間、地域の中で共助、自助に取り組む自らを助ける行動が大切なのだと改めて感じます。そのような視点で現状を考えると、感染防止に向け日々取り組んでくださっている医療関係従事者をはじめとした皆様に感謝と期待の気持ちを抱きつつ、今自分にできることにしっかり取り組んでいこうと思います。

七中生は、今日考えたことのうち何を自分の中に取り入れてくれるのでしょうか。経験を通し考え感じたことを吸収し成長する七中生であってほしいと思います。

4月22日付プリントで体育祭開催の変更につきましてお知らせしました。日程の変更に加え、非公開での実施となり参観をご遠慮いただくことなど保護者の皆様にもご負担をおかけします。ご理解ご協力をお願いします。

日々、予定のつけづらい中です。今後の変更など連絡につきましては、安全安心メールも活用してお知らせします。登録や変更がお済でない方は、手続きをお願いします。

## 4月16日 離任式を行いました

今年の3月に本校を去られた先生方をお迎えして、6校時に離任式を行いました。まず、代表生徒から各先生へ感謝のことばと花束の贈呈がありました。今年、出席していただいた先生は、小坂力校長先生、白井祐治先生、松沼かす美先生、新妻佳奈恵先生です。



小坂校長先生からは、3年生とのスキー教室の思い出、2年生との校内学習の思い出が話されました。また、元阪神タイガースの下柳選手のエピソードを通して、やめる理由を言うのではなく、続けられる理由・できる理由を考え、コロナ渦の中でもできることを探し続け、それに挑戦してほしいと述べられました。

白井先生からは、自分で決めてあきらめずやり続けたことは、必ず叶うこと。また、七中でのボランティア活動が先生本人にとってもとても大切だったことを述べられました。温かい気持ちで学校生活を楽しく送ってほしいと締めくくられました。

松沼先生からは、コロナ渦での合唱コンクールのことを思い浮かべ、学校の合唱は、先輩から後輩へと受け継がれるもの。七中は先輩から後輩へ「歌は歌うもんだよ」と伝えていける学校だと思う。中学生の声はとても貴重です。歌が苦手な生徒もいるけど、仲間と歌っていると歌えるようになる。それができるのは今だけかもしれません。あったかい仲間がいる。それを大切にしてほしいと話されました。

新妻先生からは、これから皆さんが生きていく中で、人との出会いというものを大切にしてほしい。そして、いろいろな人といろいろな場面で関わっていくことが大切。七中でのことは、一生の思い出として残していきたいと話してくれました。

## 4月24日 調布市防災教育の日

今年の「調布市防災教育の日」は、コロナ渦の中の実施となり、引き渡し訓練も実施できませんでしたが、体育館では、地域・市役所の方の避難所開設訓練や消防署の方に講評をいただいた避難訓練も実施でき、有意義な一日となりました。



生徒の防災授業・命の授業の様子を紹介します。

### 1 防災の授業

1・2年生は、「災害時に求められる正解のわからない判断」について考えました。目的としては、災害時のどちらか判断の難しい問いに対して積極的に考え、表現し、協働して解決策を模索し、事前の備えの必要性を理解することです。例えば問1『あなたは、津波の心配のない学校にいます。大きな地震が起きた後、自分は無事でしたが、先生は「しばらく学校で待機するように」と言っています。でも家では10歳の妹が風邪で寝ています。両親は仕事先から帰ることはできません。それでも先生の指示に従いますか?』生徒は、自分の出した結論に対してその理由やそのことによってどんな問題が生じるかなどを考えました。



3年生は、「もしも学校が避難所になったら～避難所誘導を手伝ってみよう!」をテーマに災害対応トレーニング教材を使用して授業を行いました。具体的には専用のパワーポイントスライドデータを示し、ストーリー形式で災害時の状況をイメージし、その後、学校での避難所開設を想定し、「避難誘導」の支援活動を図上演習しました。

### 2 命の授業

各学年で共通の資料を使い、全クラスで「命の授業」が行われました。

1年生は、新聞社の記事をもとに書籍化された「妻が願った最期の七日間」というテレビ番組を元に命について考えました。

2年生も「命が生まれるそのときに」を題材に、詩「いのちの音」と出産を撮影するフォトグラファーの文章や写真を通して、「生きている」ということの尊さについて考えました。

3年生は「命の選択」という題材で祖父の意思に反して延命措置を施すことに葛藤する家族の姿を描いた文章と、尊厳死に対する複数の立場からの新聞投稿を通して、命について考えさせました。

どの学年・クラスの生徒も「命」というものを考える授業となりました。

